



# マーチィ's ROOM

## マーチィに訊け!

まちづくりライブラリーからおすすめの一冊 県都市計画課で貸し出しできます!  
「三宅島観光白書 三宅島学」 著:大下茂 大森哲至



今号のおすすめ  
ライブラリーこちら!



「火山との共生」をしながら観光産業の発展をしてきた三宅島の歴史と体験を「地域版の観光白書」として1冊にまとめられています。

三宅島を含む伊豆諸島は、1970年代から80年代にかけて離島ブームが到来し、伊豆諸島全体への観光入込客数は、100万人を超えていましたが、2000年の三宅島の噴火の後に減少し、近年では40万人前後で推移しています。そのうち、島ごとでみると三宅島は第5位となる7.6%の観光客が来訪していますが、ピーク時と比較すると三宅島は、ほかの島に比べて回復が遅れています。ブーム以降の離島では、次の集客の糧になるものを発見・創造していかなければならない時代になっています。

本書では、三宅島固有の特徴がたくさん紹介されています。地域を魅力的なまちにするには、かたちあるものばかりではなく、地域に眠っている独自の資源を活かして、地域の外からたくさん人が訪れる、魅力あるまちをつくらなくてはなりません。まちづくりに重要な、「集客・観光まちづくり」という視点から読むことができるので、ぜひご一読ください。

## マーチィ VOICE

### ●ファシリテーターの紹介●

館林市都市計画課 初澤 一樹



初澤 一樹さん



講座の様子

令和元年度に群馬県ファシリテーターの認定を受けました館林市都市計画課の初澤です。

研修に参加するまでそもそもファシリテーターとは何なのか、何をやるのか全く知識が無く、また私自身入庁して1年目での研修参加だったため、非常に不安でした。他の自治体の方とお話する機会もほぼ初めてであり、緊張しておりました。

研修では5~6人のグループに分かれ、それぞれリーダーやタイムキーパー、模造紙作成等役割を持ち各課題について検討を進めて行きますが、この役割に非常に難儀しました。役割はグループが変わる度に変更になりますが、その役割を熟そうと意識していると課題検討に対する意見が中々出せず、今度は意見出しに熱中してしまうと自分に与えられた役割を忘れてしまう事もありました。自分の考えを持ちつつ他の方の意見を引き出す事、それに対してどうアプローチをしたら良いのかを学ぶことが出来ました。

グループで行う研修の中で一番印象に残っている事として、出た意見に対して否定をしないという事です。一見話し合いの場で当たり前の事では思いましたが、例えば一度出した意見に対して否定されてしまうと、その方が他の課題検討で良い内容を思いついても、また否定されるのではと、中々言い出し難い雰囲気となります。実際のワークショップでは声の大きい方、小さい方、知識が有る方、無い方、老若男女問わず様々な方が集まります。参加された方に対して、ファシリテーターとして発言しやすい雰囲気を作る事、その課題に対してどう考えているのかを言いやすい環境を設ける事が重要であると考えています。

大下先生、市町村職員の皆さま、事務局の皆さまのおかげでとても有意義な研修を受けることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

※パートナーネットワーク講座は令和元年度で終了しました。

## マーチィの掲示板

### 令和2年度全国景観会議全体研修会 に参加してきました!!

皆さん、こんにちは。マーチィです。

10月22日(木)・23日(金)に、高知県四万十市で行われた「令和2年度全国景観会議全体研修会」に参加してきました。

この研修会は、全国景観会議の会員が一同に集い、良好な景観形成に関する知識の普及、情報の交換を行い、担当者の専門的知識を深める。また、景観形成に関する事例を視察し、今後の景観行政に活用するために毎年開催されているものです。

高知工科大学の重山教授をはじめ、学識者の方々から貴重なご講演を頂き、どれも高知県の風景・文化が色濃く反映された内容で、県内で見受けられる取組とは違った地域の特色が見て取れて興味深かったです。

例えば、四万十川は、鮎や天然うなぎ、テナガ海老などの漁が盛んで、青海苔の産地としても有名です。また、カヌーやキャンプまた川を横断するジップライン等、アウトドアの場としても人気で、地元の生活に溶け込んでいます。沿川の市町は、そうした自然や文化的な営みを掘り下げ、川を中心とした景観計画を策定し、景観形成を図っていました。来訪者がイメージするような風景があるからこそ、観光が成り立つといった話もあり、学ばせていただきました。



欄干のない沈下橋、車両も通行可



カヌーなどアウトドアも人気

